

2021年 学校関係者評価  
報告書  
(2020年度)

学校法人滋慶学園  
東京スポーツ・レクリエーション専門学校

作成日：2021年6月28日

## 学校法人 滋慶学園 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 2020年 第1回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：中村 裕子

1. 開催日時 2021年6月28日(月) 15:00～17:00
2. 開催場所 東京スポーツ・レクリエーション専門学校
3. 委員 **学校関係者評価委員** ※敬称略  
白川 創一 業界代表 (株式会社F 代表取締役)  
前田 弘 業界代表 (公益社団法人 日本サッカー協会 アスレティックトレーナー)  
坂井 伸一郎 業界代表 (株式会社ホープス 代表取締役)  
森 章 高校関係者 (拓殖大学紅陵高等学校 学校長)  
原野 大輝 近隣関係者 (一般社団法人東京23スポーツクラブ 専務理事)  
阿部 幸夫 卒業生代表 (スポーツトレーナー科(スポーツヘルス科))  
森 美穂 保護者代表 (スポーツトレーナー科)

### 学校職員

関口 正雄	東京スポーツ・レクリエーション専門学校	学校長
後関 慎司	〃	副学校長
三井 真以子	〃	事務局長
藤本 拓也	〃	事務局次長
植田 慎司	〃	教務部長

### 4. 会議の概要

#### (1) 学校長挨拶

職業実践専門課程とは専門学校の地位向上を目的とするものである。様々な要件をクリアする必要があり日々のコンプライアンスも継続し公表していかなければならない。また、高等教育機関修学支援新制度も同様に更に厳しい要件が課せられている。そのような背景の中で学校も真剣に取り組む自己点検自己評価を行い公表している。2020年度はコロナ感染拡大の影響により授業や業界での実習の方法について変えざるを得ないことも多くあった。今回の委員会の中では学校側からその内容について報告がある。

皆さんからも忌憚なきご意見が今後の運営に役立つものとなるため積極的な発言をお願いしたい。

## (2) 学校職員人事異動

事務局長 三井真以子

2021.3月より就任。

2020年度はコロナ禍により入学式が中止。授業は5月中旬よりオンラインで開始。その後、感染予防対策をしっかりと行ったうえで徐々に分散登校。その取り組みによりコロナに感染した学生は3名に抑えることができた。専門学校は実技の授業がメインとなるので学びを止めずに学校運営を行っていくことが重要である。

## (3) 新委員の紹介

- ・保護者代表 スポーツトレーナー科 森さんのお母様が就任。
- ・近隣関係者代表 一般社団法人東京23スポーツクラブ 専務理事 原田さんが就任。東京23スポーツクラブは江戸川区をホームタウンとして活動しているJリーグクラブ。

## (4) 2020年度自己点検・自己評価報告

### ●学事報告

- ・中途退学者 4% (目標 5.1%)  
コロナ禍の状況ではあるがオンライン等の取り組みを早い段階から始めた事で、学生の意識が学校から遠のくことがなかった。
- ・就職希望者内定率 94% (目標 100%)  
求人数の減少就職はやはりコロナの影響を受けており3月末時点での着地は100%とはならなかった。現在も継続して支援中。
- ・進級率 92% (目標 91.4%)

### ●広報実績

2019年 352名

2020年 292名

2021年 256名

苦戦している状況。いろいろな要因はあるが、コロナもその1つとなっている。

- ・別紙、評価表を参照し各担当者より報告。

## (1) 委員からの意見

- 留学生の割合はどのくらいか。

在籍している留学生は13名。全体の0.3%程度。中国、台湾等のア

ジヤ圏が中心。受け入れは積極的に行っていきたいが、専門用語以前に日本語能力があやしい学生もいるため、入学後の日本語教育が課題となっている。また、異文化、価値観の理解に関してもケアできる体制を進める必要がある。

- トレーナー派遣状況はどうなっているか。働き方改革で中学、高校で部活動が教員の負担になっており授業等の業務に専念できない、また競技に関する専門的知識がないまま顧問を担当する等の意見があり各学校では外部委託を検討している。学生の実習を絡めることで教育効果がきたいできるのではないか。

昨年度は活動が制限されていて件数的には少なかったが、トレーナーとしてだけではなく、トレーニング指導として依頼されることがある。実績としてはサッカー部、野球部。授業の一環として講師と学生が部活動の現場に行きトレーニング指導を行っている。

- 部活動指導について江戸川区の行政とはどのように繋がっているか。

江戸川区に限定すると、すすくすくスクールでのサッカー指導の依頼を受けている。また江戸川区の公園整備課から子供たちが公園で遊ぶための企画立案の協力を求められている。

行政では若い活力を求めているのではないか。教育と絡めて地域貢献、地域の活性化に繋がる取り組みが出来ればいい。

学校側が積極的に行政と関わりを持つことが望ましい。

- シラバスの部分で内容がストレッチし過ぎて学生の満足度に繋がらない事がある。あれもこれもとカリキュラムが多岐に亘りすぎていないか確認が必要。学生のレベル感に合わせる。

- 卒業後に医療資格を希望する学生がいると思うが医療資格を取得できるカリキュラムはあるのか。

現状は姉妹校の東京メディカル・スポーツ専門学校とのWスクール（併修）で資格取得できるシステムとしている。医療系学科の設置は厚生労働省への申請等、簡単に短期間で手続きできるものでは無いため今ある資源の活用で業界のニーズに応えていきたい。

- 国際交流のプログラムの中に海外で成功しているビジネス例を積極的に学生に伝えたい。アントレプレナーシップに対する学生の理解や要望に応じてカリキュラムに取り入れていったらどうか。日本はどうしても欧米に比べて国際化の教育が遅れている。学生の将来のジャンプアップには必要な要素となってくるのではないか。

## 5. 閉会のあいさつ 副学校長

皆様からの貴重なご意見をもとに今後の学校運営に役立てていきたい。

以上